

第 1 課

教会のための神の計画

イエスは言われました。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」(マタイ16:18)。これはすばらしい約束です。このみことばは、教会に関していくつかの重大なことを、私たちに教えています。それらを取り上げてみると：

1. 教会はイエスの教会であること——「わたしの教会」
2. 教会に対してイエスは計画を持っておられること——「わたしは……建てます」
3. イエスの教会は決して負かされることはないこと——「ハデスの門もそれには打ち勝てません」

世界の初めから、神は教会についての計画を持っておられました。それは隠されていた計画でしたが、時が満ちると神はその計画を啓示されました。そしてまた神の計画は未来にも及んでいることを、私たちは学ぶでしょう。神は私たちのために偉大なことを用意されました。たとえ現在、私たちが問題の中に置かれていたとしても、信仰をもって未来に視線を向けることができます。



この課であなたが学ぶことは……

教会の始まり

教会の栄光ある未来

教会の現状

教会の目的

教会の苦難

この課を学び終えた結果は……

- 教会のための神の計画がいつ始められたか説明できる。
- 神の計画におけるイエスの役割を確認できる。
- 現代の諸問題に対して、神の永遠の計画を関連させることができる。

教会の始まり

学びの目的1 教会のための神の計画がどのように始まったかを学ぶ。

教会は一体どこから来たのでしょうか。もしかしたら、あなたの住んでいる地域に数世紀前から存在している教会か、あるいは、できて間もない教会かもしれません。それとも、あなたの地域のだれかが福音を語り始めたか、他の地域からキリストについて語るために、だれかが来たのかもしれませんが。

福音があなたの地域に語られる前、また福音についてだれも知らないずっと以前から——、神はすでに計画を持っておられました。神の計画は、あなたが生まれると同時に始まったのでもありません。また、イエスが死なれた十字架で始まった訳でもないのです。神の計画は、神がこの世を造られる以前からすでに始められていたのです。この計画に関して使徒パウロは、エペソの教会に次のように書いています。



「すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。」 エペソ1：4—5

そして時が熟すと、イエスが来られました（ガラテヤ4：4 参照）。イエスは神についての真理と、多くの奇蹟を行なわれましたが、人々は彼を受け入れることを拒みました。人々はイエスを十字架につけましたが、神はイエスを死からよみがえらされました。

イエスはユダヤ人を対象に伝道を始められましたが、多くのユダヤ人たちはイエスを受け入れませんでした。しかし神は、その計画を着々と進めておられました。このことについてパウロは再び、次のようにエペソの教会の人々に説明しています。

「この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。」

エペソ3：5—6

すなわち教会とは、すべての国のキリストを信じる人々のことです。彼らは福音を通して神の教会の一部とされているのです。



自習のために

この自習のための質問等は、みなさんの学びの復習、または学んだことの実行に役立つものです。

- 1** 下記の質問に対して正解と思われる個所を○で囲みなさい。
- 1) 神の計画はイエスが死んだ時から始められた。
 - 2) 神の計画は人間が造られた時から始められた。
 - 3) 創造の初めから神は教会についての計画を進めていた。
- 2** エペソ 3 : 5—6 を読んで、次の質問に答えなさい。
- 1) 神はどのようにその計画を啓示されましたか。

2) 神の計画とは何でしたか。

あなたの答えを、この課の終わりにある正解と照合して下さい。

教会の栄光ある未来

学びの目的 2 教会の未来について、神の計画がどのようにキリストと関わりがあるかを学ぶ。

神はキリストを通してその計画を進めておられました。人々のキリストに対する拒絶は、神の計画をさえぎることはできず、またキリストの死も神を止めることはできませんでした。神は確実にその計画を進められたのです。

そしてまた神は、未来に関しても計画をもっておられ、時が熟せば必ず、神の計画を成就なさいます。神は今日まで打ち負かされたことはありませんし、今後も絶対にあり得ません。聖書は、神が教会のためにたくわえておられることについて書かれています。イエスは死を前にして、次のように祈られました。

「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。」

ヨハネ17:24

いつか——時が熟した時に——神はこの祈りに答えられます。いつの日か教会はイエスと共におり、そして私たちは彼の栄光を見るでしょう。天国がどのような所であるかだれも知りませんが、イエス・キリストと共にいるということは何とすばらしいことでしょう。

聖書には、このことがどのように起こるかをパウロが、テサロニケの教会の人々に次のように書き送っています。



「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」

I テサロニケ 4：16—17

私たちは、このことがいつ起こるのか知りません。ごく近いうちに起こるかも知れません。神が最もよく時機をご存知です。



自習のために

3 次の各文の空白を、適切な言葉でうめて下さい。

- 1) 過去において神はその計画を成就されたので、____
においても私たちは神を信じることができます。
- 2) 天国において最も素晴らしいことは、私たちが____
と共にいることです。
- 3) 主が教会のために天から来られる時、どのような音が聞こえるでしょう。_____
- 4) 死んでいた信者たちも、生き残っている信者たちも共に____に会います。

4 ヨハネ17：24の祈りの中で、イエスは何を願ったのでしょうか。

- 1) 神が更に、私たちが愛して下さるように。
- 2) 天国で私たちが、イエスと共にいるように。

3) 父なる神が、イエスに教会を下さるように。

5 ヨハネの黙示録22：5を読んで、天国ではだれが君臨されるでしょうか。

- 1) 使いたち。
- 2) 父なる神と子なる神。
- 3) 教会または信者たち。

6 教会に関する神の未来の計画を説明して下さい。

答えを確認して下さい。

教会の現状

教会はすばらしい過去と、栄光ある未来を約束されていますが、現在はまだこの世に置かれているのです。私たちは、永遠、過去、未来に生きているのではなくて、現在は地上にあって生きているのです。私たちが学んできた真理は、現在に生きる私たちをどのように助けてくれるのでしょうか。

教会の目的

学びの目的 3 今日教会の目的を二つ学ぶ。

あとで私たちは教会の務めについて、更にくわしく学びますが、ここでは全体的な目的について学びましょう。パウロがエペソの教会に宛てた手紙の中で、次の個所を読んでみましょう。

「すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが

与えられたのは、私がキリストの測りがたい富を異邦人に
 宣べ伝え、また、万物を創造された神の中に世々隠されてい
 た奥義を実行に移す務めが何であるかを明らかにするため
 にほかなりません。これは、今、天にある支配と権威とに対
 して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであっ
 て……。」 エペソ 3：9—10

10節の「天にある」の「天」は「霊的な争い場」を意味します。
 そして、「支配と権威」とは、「人々に悪を行なわさせる悪の霊」を
 意味します。神による教会の目的は、この世の悪の霊を打ち破るた
 めであるとパウロは語っているのです。

三章の後半を見てみましょう。教会の目的である、悪を打ち負か
 すために、私たちが神のみ前に祈りをもって、大胆に近づくことが
 できると聖書に記されています（エペソ 3：11—13）。また、この
 ことにより私たちは、神の力によって力強く立つことができます
 （エペソ 3：14—16）。そして最後に、私たちは愛をもって団結しな
 ければなりません（エペソ 3：17—19）。

教会の全体的な、第二の目的は、この三章の最後の数節に書いて
 あります。

「どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、
 思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会
 により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、と
 こしえまでありますように。アーメン。」 エペソ 3：20—21



自習のために

7 もう一度、エペソ人への手紙三章を読んで、教会の二つの目的についてあなたの考えを述べて下さい。

8—10節 _____

20—21節 _____

答えを確認して下さい。

教会の苦難

学びの目的 4 なぜクリスチャンが苦しむことがあるのかを学ぶ。

クリスチャンは、キリストに対する信仰のゆえに時には苦しむことがあります。そしてまた、教会も痛手を受けるということもあります。あなたは今までに、クリスチャンであるために冷遇されたことはありませんか。人々に傷つけられたり、誤解されたことはありませんか。信仰のゆえに世の人々は、クリスチャンと争うこともあります。これらのことを迫害といいます。

このような苦難には、理解しがたいものがあります。あなたは、「神が私のために、すばらしいことを計画されているなら、なぜ今、このような苦しみに会うのだろう」と問うことがあるでしょう。このような質問は決してやさしいものではありませんが、聖書には何と書かれているか見てみましょう。

1. ある一部の苦難は一般的なもので、クリスチャンでない人々

でも出会うものですから、私たちクリスチャンであっても同じような苦しみに会うことでしょう。しかし、「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」(Ⅱテモテ3:12)とパウロは、若いテモテに言っています。すばらしいことは、私たちが苦難に会うときには、神は私たちと共におられ、私たちに力を与えて下さるということです。



2. 苦難は特権です。私たちクリスチャンは、キリストのために苦しむことは誇りであると知っています。迫害された者たちに神が特別な報いを用意されているので、苦難は特別なものとなるのです。パウロは、ピリピの教会へ次のように書き送っています。「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜わったのです」(ピリピ1:29)。

3. 苦難は一時的なものです。苦難は決していつまでも続きません。パウロは、ローマの教会の人々に次のように書きました。「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます」(ローマ8:18)。

4. 苦難は報われます。私たちは苦しみに会うとき、未来に目を向けることができます。この地上に目を向けず、天国を見上げるのです。神は必ず私たちに報いて下さいます。「もし耐え忍んでいる

なら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる」(Ⅱテモテ2:12)と聖書に書いてあります。神は私たちの人生を記録されています。

ここまで学んできて、神は教会のために多くのすばらしいことを計画されていることに気づかされます。私たちは、その大いなる未来の一部になることができるのですが、そのためには苦難の時にも神に忠実な者でなければなりません。「私がクリスチャンであるために、父親は私を受け入れてくれないのです」という方がおられるかも知れません。それは本当につらい事だと思いますが、それが一般的なことだということ覚えて下さい。そしてやがて、イエスが教会のために来られた時、多くの苦しみや痛みから解放され、霊的な聖徒たちと共に、喜び合える日が来るのです。



自習のために

- 8** 神の永遠の計画を考慮するとき、教会に迫害の時があるのでしょうか。

答えを確認して下さい。

おめでとうございます！ これであなたは最初のレッスンを終了しました。私たちは数ページで、時の初めから天国における永遠に進みました。教会の起源と終わりについて学んだのです。次のレッスンでは教会の聖書的な定義について学びましょう。「私の教会を建てます」といわれたイエスの言葉は何を意味したのでしょうか。

正 解

学習問題の正解は番号順に記されていません。それは前もって次の問題の正解を見ないためです。必要な番号だけをさがして、次の正解を見ないようにして下さい。

8 あなたの答えに、次のポイントが含まれていますか。

◎苦難は一般的なことである。◎キリストのために苦しむのは特権である。◎報いを受けるために喜んで苦しみを耐える。

1 3) 創造の初めから神は教会についての計画を進めていた。

7 1) 悪に打ち勝つため。2) 神の栄光のため。

2 1) 御霊によって、キリストの使徒たち、預言者たちに。

2) ユダヤ人と異邦人が、一つの体となること。福音によってユダヤ人も異邦人も、キリストの祝福を受けられる。

6 キリストは教会のために、再び来られ、教会は永遠に彼と共におり支配する。

3 1) 未来。2) 主なるイエス・キリスト。

3) 号令、み使いのかしらの声、神のラッパの響き。

4) 主。

5 3) 教会または信者たち。

4 2) 天国で私たちが、イエスと共にいるように。

